

私の留学体験記

広島県立広島国泰寺高等学校 2年 向井 怜央 (むかい れお)

留学期間 平成 29 年 8 月 19 日～平成 29 年 9 月 3 日 (16 日間)

留学先 モアナルア高校 (ホノルル市, アメリカ合衆国・ハワイ州)

私が今回の留学で学んだことは、2つあります。

1つ目は、自分から積極的に話しかけることの大切さです。私は、最初の頃、不安や緊張があり、自分から話しかけたり、質問したりすることを少しためらってしまっていました。文法や単語、言い回しをきちんとおもうとしすぎていたり、通じなかったらどうしようと考えてしまったりしていたためです。しかし、実際に話しかけてみると、普通に会話が成り立ちました。通じなかったり、発音がうまくできなかったりしたこともありましたが、そこで会話が終わってしまうことはありませんでした。言い方を変えたり、そのものについて説明してみたり、ジェスチャーを使ったりして、自分の伝えたいことを伝えることができました。そのあと、英語ではどのように言うのか、発音はどうなのか、文法のどこが違ったのかななどを聞き、その度に丁寧に教えてもらい、日本にいるときよりも多くのことを学ぶことができました。何度でも、伝わるまで粘ることで、相手も毎回最後まで真剣に聞いてくれ、色々なことを知り、新たな会話が増えました。最初の頃感じていた不安や緊張は、声をかけるごとに消えていき、会話ができることの喜びや楽しさを知りました。現地で本物の英語を教えてもらうことで、知らなかった言い回しを知ったり、多くの語彙を習得したりすることができました。相手は私が完璧な英語を使えるとは思っていないし、消極的になるよりも話しかけた方が喜ぶ、と考えると心も軽くなりました。完璧に話すことができないからこそ、多くのことを学ぼうとする気持ちや姿勢が大切だと強く思いました。

2つ目は、活きた英語を聞くことの大切さです。ハワイに来て、一番驚いたことは会話のスピードが想像の何倍も早く、何の話をしているのか、何を言っているのかが全く聞き取れなかったことです。ゆっくり言ってもらえると、簡単な内容だったりすることも多く、初めのうちは英語のスピードに慣れるのに精一杯でした。私に話しかけてくれる時は、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーをつけてくれたりしたので、聞き取ることができましたが、授業や友達や家族での会話にはついていくことができませんでした。どんなに文法や語彙を知っていて、テストの点数が高くても、相手の言っていることを理解できなければ会話は成り立ちません。日本のリスニングをいくら完璧に聞いても、その何倍も早いスピードについていくためには、実際に海外へ出て、活きた英語聞くことが大切だなと感じました。r と l の発音の違いで、意味が大きく変わってしまったたり、アクセントが違うだけで、伝えたいことが伝わらなかったり、小さなことがとても重要だということを今回の留学で学びました。また、食事を終えたというとき、finish ではなく、done を使ったり、くしゃみを誰かがしたときには、bless you , 言ってもらった側は、thank you と言っていたり、現地での言い回しや表現を肌で感じるすることができました。

今回の留学で、日本の文化、広島のいいところをすべてうまくは伝えることができなかったという後悔や反省、それでも言いたいことは言え、理解してもらえた喜び、完璧ではなかったからこそ知り得た多くのこと、ハワイに来て初めて気づいたことなど感じたことはたくさんあります。ハワイに行く前よりも成長し、見ることのできなかった新しい世界を知り、広い視野を持つことができました。この2週間で学び、思ったこと、感じたことを忘れずに、もっと高みを目指して、日々の勉強や生活を頑張りたいと思います。この貴重な時間を過ごすことができたことへの感謝も忘れずに、この経験を無駄にしないように努力していきます。

